

STS Network Japan 2002 研究発表会

ポストモダン時代のパブリック概念

京都大学 人間・環境学研究科

春日匠

R&Dシステムの再編成を論じる前に、その背景を論じるべき。例えば、技術革新とイノベーションはもはや同じ意味では使われていない)

NPOなど、政府機能の多元化は好ましいことか、検証が必要。実際、左派的価値観からしても、分権化とエンパワーメントは同じではない。

- ・パブリック/プライベートとは？
- ・ポストモダンとは？
- ・ポストモダン時代のパブリック概念

Public

徳、意思、政治、自由、
公にされるもの

Private

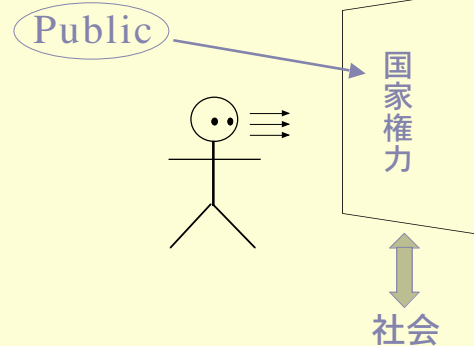
運命、不可避なもの、
奴隷、隠されるもの

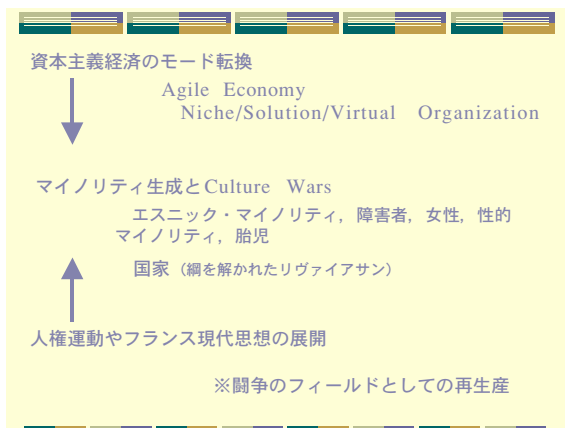
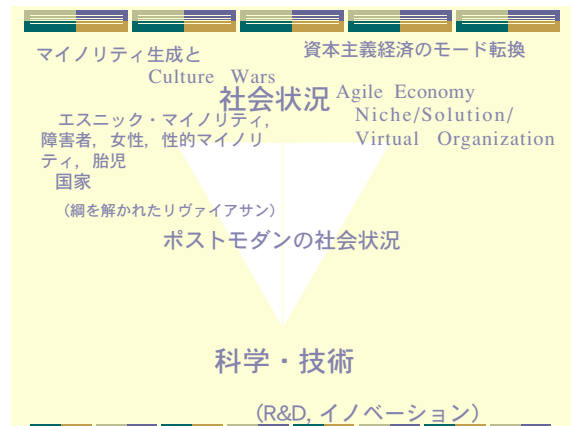
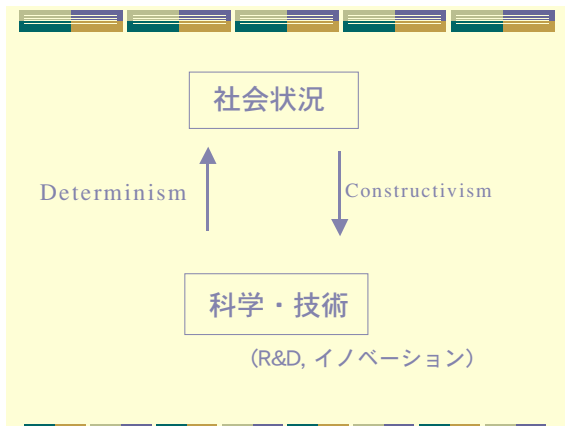
※善性 (Goodness)と幸せ

ハーバーマス



アレント





- ・ 闘争のフィールドとしての再生産
なぜ教科書と中絶が闘争の最前線か？
女性が引き受けなければ行けない「生産性の低下」
XXは人間ではない (表象権を持たない) という論法
- ・ ポストモダンの命題
い) 社会なるもの (や社会による救済) はもはやあり得ない。
ろ) 全ての発話は立場性に条件付けられている (Privateを背負わぬものはない)
従って、公論/理想的発話状況はありえない。

- ・ もはや実体としてのパブリックは存在しない
- ・ Niche 戦略により分断されたマイノリティ・グループとしての消費者
- ・ 国家やマジョリティも分断される

- ・ ただし、表象権の思想においても「内と外」は含意されている (誰がマイノリティ・グループを「代表する」のか?)
- ・ ブラック・ボックスとしてのマイノリティ・グループ (彼らの「善性 (外向きの決定力)」と「幸せ (内向きの決定力)」は公開不能だが、政策というインプットに対する要求というアウトプットで内部構造が推定できる。但し、ポストモダン状況下における要求は理想的発話状況の妥当要求だとみなすことは出来ない)